

今日は貴重なお時間を頂きありがとうございます。
私は現在2歳の男の子の双子を育てているフルカワと申します。
話すのが下手くそなので台本を作ってきました。

みなさんは、単胎(たんたい)と多胎(たたい)という言葉を知っていますか？
どちらも胎児も含む子どもを意味します。
単胎が、1人で生まれてきた子ども。
多胎が、双子や三つ子、2人以上の子どものことです。

1ページのグラフをご覧ください。
赤と青と黒の線があると思いますが、黒の多胎出生割合から分かるように
この双子や三つ子が生まれる多胎家庭が年々増えてきています。
増えている理由に、不妊治療の普及があります。

三重県ではどれくらいが多胎家庭があるかという、次のページの表をご覧ください。
黄色のラインのところが三重県です。
こちらが最近10年のデータですが、平均すると毎年約143組の多胎児が生まれています。

この数を多いと思いますか？少ないと思いますか？
実は双子は出産100回に対して1組生まれてくるそうです。
そう考えると143組って多く感じませんか？
出産100回に対して1組が、毎年約143組もいるのです！

すごくすごく悲しいですが、143組のうち、ほとんどの家庭が用意された行政や民間のサービスが使えません。
議員さんや市長さん、副市長さん、そして担当窓口のみなさんが頑張って用意したサービスがです。

今日お伝えしたいのは3つあります。

1. 多胎家庭がなぜほとんどのサービスを使えないのか
 2. そして今のサービスがどう変わればそれが使えるようになるのか
 3. 導入してほしいこと
- です。

まず一番目に多胎家庭がなぜほとんどのサービスを使えないのか

それは単胎児の家庭をメインに支援制度は設計されており、多胎家庭ってやっぱり特殊なのです。

まずバス・電車・タクシーは使えないため、外出前提のサービスはほぼ受けられません。仮に外出できても双子用ベビーカーでも移動できる場所じゃないとたどり着けないです。建物の入り口やエレベーターが狭くて諦めることもあります。

この総合会館、地下から一階までのエレベーター、すごく狭くてむりやり押し込みましたが、もし今日私をもってきたベビーカーよりも大きいタイプならまず使えません。

外出前提のサービスって本当に多くて、オンラインでのサービスを探すほうが難しいくらいです。

例えば市役所の窓口申請、さくらんぼ広場、ファミリーサポート、産後ケアセンター

ちなみにファミリーサポートってみなさんご存知ですか？

ファミリーサポートは行政がおこなっている子育て支援の取り組みで、会員制の子育て支援サービスです。子育ての援助を受けたい「依頼会員」と援助をおこなう「提供会員」が、会員同士で子育てをサポートします。地域の会員同士が支え合うことで、子育て家庭の負担を軽減する取り組みです。

みなさん、双子って大変だからたくさん人の手を借りてくださいねって言うんです。

でもファミリーサポートセンターって決まった日に説明会に行って、また違う日に双子を連れて面談に行くんですけど、実際は双子だからごめんなさいって断られるのをご存知ですか？

半数～7割が断るそうです。

ベビーシッターは2倍なので高額すぎて継続的に使えないし、それならせめて一時預かりはと思うと、この日は1人なら預かれるんですけど、2人は無理ですね～、って断られるんです。

2人同時枠をとろうと思うと一か月以上待たされることもザラにあります。

同じ理由で保育園入園も枠が取れずに、単胎家庭よりも落とされます。

別々の違う園で申請したほうが通りやすいとか聞くんですけど、現実的じゃないですよ。

単胎と多胎と同じ条件でスタートを切ると確実にマイナスな状態なので、多胎用にサービスを用意しないと多胎は用意された支援の手から零（こぼ）れ落ちます。

私は思うんですけど、多胎家庭はもう虐待事件起こしてもしょうがないなって思うんです。とても極端な意見なんですけど、子供が一人のところにくらべて、多胎児の親の大変さはもう本当に気が狂うくらい大変で、実際虐待率が2.5 - 4倍高いといわれてるにも関わらず現実的に使えるサービスがないんですよ。

あってもほとんど使うのに産後ボロボロの状態で小さな赤ちゃん二人抱えていかないと使えないとか、外出前提の時点でハードルが高すぎて多胎家庭はほぼ心折れる人が多く、機能してなくて、言い方悪いですけど市も県も形だけ用意して、それが使いやすいか使いにくいかなんて何も考えてないんですよ。

本当にそのサービスを導入する時に多胎家庭に意見を求めたのかな、と。意見があってもマイノリティだから、少しの人数の声なんてかき消されるんです。

この多胎サロン「さくらんぼ広場」ってありますよね。

でもここに集まれる双子のお母さんって比較的元気だから来れる人であって、もう死にそうになって一番救いを求めている人ってここにすら来る気力もないんです。

そういう人が一番救済しなくちゃいけない虐待だったり、命を絶ってしまおうとしている人なのに家からずっと外に出れずにどんどん病んでいくんですよ。

今のサービスがどう変わればそれが使えるようになるのか

外出前提のサービスを見直してほしい。

- ① 役所窓口はオンライン申請や郵送で受理してほしい。
- ② ファミリーサポートの登録や面談をオンラインにするか、直接産後訪問などの自宅訪問の際にその場で手続きできるようにしてほしい。
- ③ さくらんぼ広場など外出前提のサロンサービスもオンライン通話にするなど

オンラインだったり、訪問型だったり、死にそうなお母さんが外出しないでもいい方法を用意してほしいです。

そしてその存在を事前に知っていることが重要だと思います。

今後導入の際に考えてほしいこと

多胎支援ってサービスだけ用意すればいいという物じゃなくて、緊急性や優先度があると思います。

四日市市が用意してくれた多胎サロンはすごくありがたいのですが元気になったらいける場所だけで緊急性が高くない部分なんですよ。

また時間のある時に他の市はどんな多胎支援されているは見ておいてほしいのですが、圧倒的に支援してほしい箇所はまとまった睡眠時間を取れない0歳児の時期です。

0歳児の乳児の頃は3時間おきに授乳しなくてはならないし、それも交互に時間差だったりするので親が眠れません。

授乳が終わっても、哺乳瓶洗ったり、搾乳したり、オムツ替えたり、着替えさせたりしてるので、とにかく親が少しでも寝る時間や休める時間をもたないと、心も体もまいってしまうと思うのです。

それと外出のハードルが高いのに予防接種など外出必須のイベントが0歳児は多いです。

にもかかわらず現状、その時期に家事や育児をして親を休ませてくれるヘルパー派遣など訪問型の支援部分が薄いと思うんです。あと外出同行とかしてもらえると嬉しいです。

産後ケアもやってらっしゃる病院とその条件みたら、出産した病院でないと優先されないとか使えないとか、あと保健師さんがきても保健師さんって多胎育児の経験もなければ多胎の情報もお持ちじゃないんですよ。赤ちゃんの体重はかる体重計持ってこられても、うちは買って置いてあるので来ていただいても相手するくらいなら正直寝ていたいですし。

また保育園も親を子から離して休ませるという意味では、多胎加点は絶対欲しいです。

こんなにしんどくて虐待率が子供一人の家庭よりも4倍高いのに、優先度が低いってどう考えてもおかしくないですか？

虐待なんて大切なわが子なのに、したい親なんているわけじゃないじゃないですか。

ファミサポ補助事業始まりましたが、半分の補助はとても大きいけれど実際登録と面談と断られる可能性の高さ考えると、補助金よりもまずもっと簡単かつ確実に使えるサービスにしてほしいです。

最後にその情報を知らなければ使いようもないので、妊娠中、母子手帳をお渡しする際に一緒に多胎育児の支援情報や育児情報を知れるように、桑名市のようにふたご手帖を渡してほしいです。

ふたご手帖は最低限の多胎育児情報なので、付け加えるのであれば三重県版の多胎支援についてのまとまったホームページが出来ることが望ましいです。

せっかく用意された多胎支援なのに今の四日市市役所の HP は情報がとても見づらいし、ひっそり大した告知なしに始まっているのもものすごくもったいないです。

もう一度最後のまとめると

- ① 外出前提のサービスをやめてオンラインで出来るようにしないと使えない
- ② 多胎加点など多胎児支援を別枠で用意しないと単体家庭よりも負けてしまうし使えない
- ③ 用意された支援や情報を妊娠時期から届ける